1．事業細目　淡水真珠緊急対策調査研究費（原因究明調査研究）　　予算額　10,000　千円
2．研 究 名　貝類の摂餌に関する研究－1　　予算区分　県単
3．研究期間　62年度～　年度
4．担 当 者　太田、氏家、高橋

5．目的　垂下養殖という方法をとる違いがあるが、近年の劣成長、斃死現象はイケチョウガイに限られている。同じ水域に生息している他の種類の貝と摂餌器官の形に違いがあるのか。

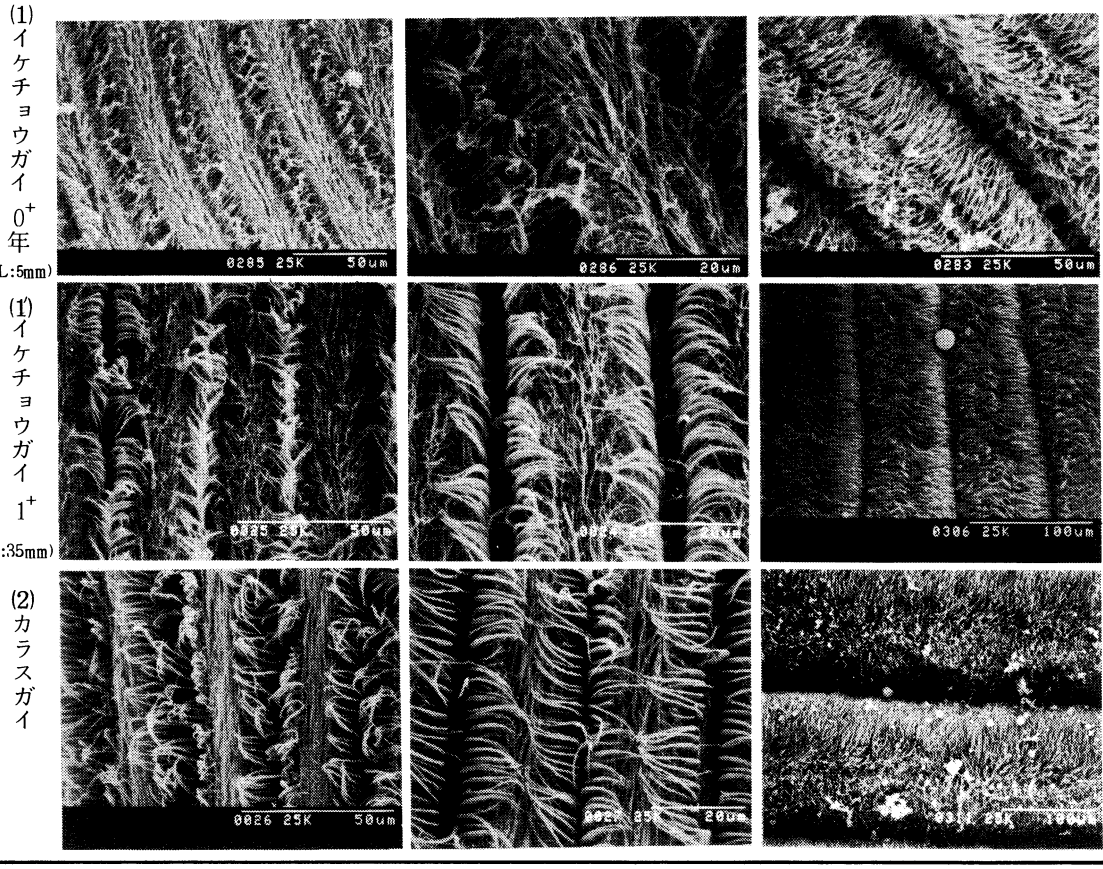
6．方法

(1)　供試貝（Unionacea と Corbiculacea）

①　イケチョウガイの稚貝、母貝、成貝…… Hyriopsis schlegeli(v.Martens）
②　カラスガイ（西の湖産）の稚貝、成貝…… Cristaria plicata clessini （Kobelt）
③　マルドブガイ（西の湖産）稚貝、成貝…… Anodonta calipygos （Kobelt）
④　タテボシ（志那沖産）…… Unio biwae （Kobelt）
⑤　ササノハガイ（志那沖産）…… Lanceolaria oxyrhyncha （v.Martens）
⑥　セタシジミ…… Corbicula sandai （Reinhardt）
⑦　マシジミ（西の湖産）…… Corbicula leana （Prime）

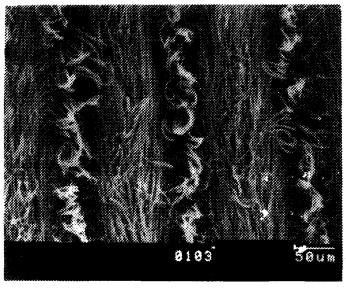
(2)　観察部位と方法：鰓と唇弁の表面。走査型電子顕微鏡により写真撮影。試料作成手順――　①グルタルアルデヒド2.5％固定→②アルコール脱水→③酢酸イソアミール置換→④臨界点乾燥→⑤金蒸着→⑥ SEM

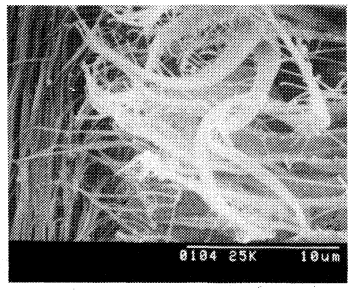
7．結果の概要

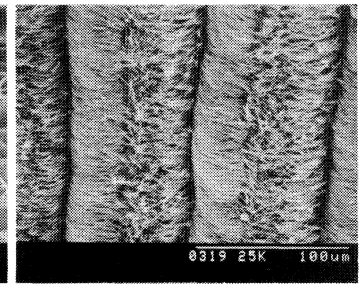


鰓の表面↓　　鰓の表面（拡大）↓　　唇弁の表面↓

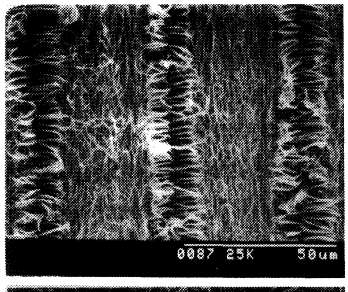
(3) マルドブガイ

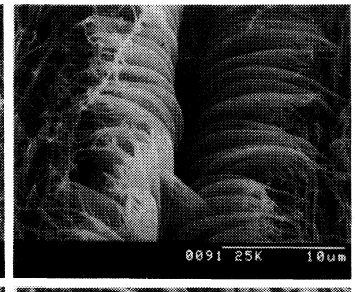


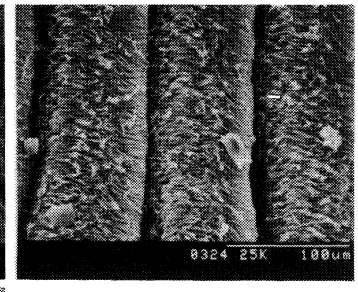




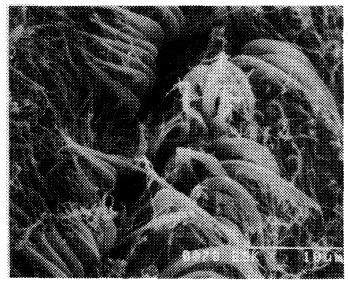
(4) タテボン



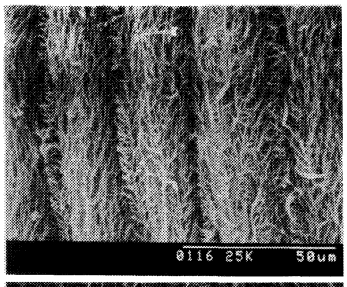


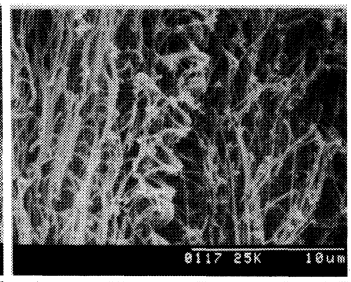


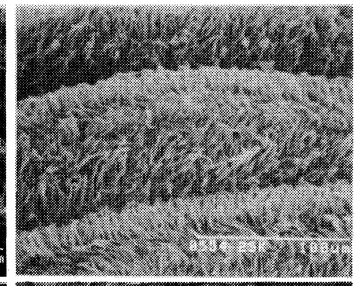
(5) ササノハガイ



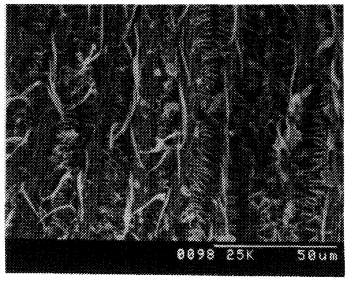
(6) セタシジミ

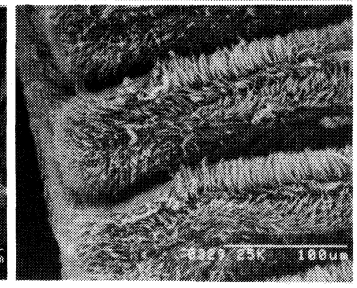






(7) マシジミ





① UnionaceaとCorbiculaceaとでは鰓、唇弁の繊毛の形態が違う。((1)〜(5)と(6)、(7)図)

② Unionacea内では、明確な差異は見られない。 ((1)〜(5)図)

③ イケチョウガイで異なる年令、サイズ間の差異は見られない。